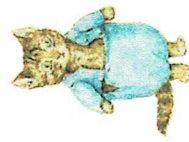
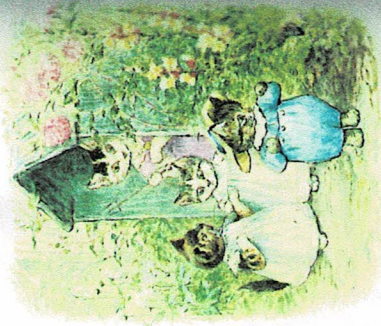


ヒルトップ農場の庭の美しさが映える 『こねこのトムのおはなし』



『こねこのトムのおはなし』で描かれたヒルトップは、初夏になると花々が移られる。



石壁や木戸も、挿絵の美事に映されている。



こねこのトムの おはなし

The Tale of Tom Kitten

タビ・トワイチットさんは、ミトム、マベットの3匹の子ねこのお母さん。ある日のこと、お客さまを招いてお茶会を開くことになり、3匹はよそいきの服に着替えさせられます。タビ・トワイチットさんはもてなしの準備をするため、服を汚さないようにと高い壁を建てて子ねこのたちを外へ出しました。約束は守られませんでした。結局、彼らは壁の壁に押しやられて、お茶会がはじまりましたが……。

咲きはこる建物の壁や庭。玄關の屋根には大舟きだつたクレマチスが咲きほこり、花壇は忘れな草、三色すみれ、金魚草、などしこなどで彩られます。

実はこの農場を買った直後、彼女には大きな悲しみに包まれるできごとがありました。長年にわたり信頼を培ってきたフレリック・ウオーン社の担当編集者であり、婚約を誓ったばかりのノーマン・ウオーンが病気で急死したのです。口うるさかつた両親から逃れて手に入れたヒルトップという楽園をつくりあげた作業や、湖水地方の豊かな自然が、少しずつ心を癒してくれたに違いありません。

今もヒルトップの庭には、初夏を迎えるとき色とりどりの花があふれます。その景色の向こうから子ねこのトムが駆けてきても、不思議ではないくらいに。

ヒルトップ・ボートが暮らしたヒルトップ農場があるのは、イングランド北部の湖水地方。もともと大きなウインタミア湖をはじめ、文字通り大小の湖が点在する美しい景色が広がっています。

ヒルトップが家族とともに、はじめてこの地を訪れたのは16歳のとき。以来、毎年のように夏の休暇を過ごすことになりましたが、なかでも彼女が気に入ったのは、ウインタミア湖の西側にあるニア・ソリーという小さな村でした。

いつかここに住みたい。そう考えていた彼女の願いは、村のヒルトップ農場が売りに出されたことでようやく叶います。数々のおはなしにヒルトップの景色が描かれているのは、それだけヒルトップが日々を愛していたからでしょう。

彼女のそんな思いが伝わってくる作品のひとつが、1907年に出版された『こねこのトムのおはなし』です。やんちゃな3匹の子ねこの背景には、玄關やそこに続く小道、階段や寝室など、購入から1年ほど経って増築をすませて、落ち着いた頃のヒルトップの様子が見られます。

なかでも目を奪われるのは、ヒルトップ自身が、丹精込めてつくりあげた花々が